

問題 1

【出題の意図】

平等と自由の両立は近代社会が抱える普遍的な問題である。問題1は、この問題について、人々の労働の量や質と成果報酬との関係という視点から検討した。素材として用いたのは、梶井厚志『コトバの戦略的思考—ゲーム理論で読み解く「気になる日本語」』（ダイヤモンド社、2010年）である。

結果の平等を保障するだけでは経済活動の活力が生み出されず、かといって極端な自由競争と単純な成果報酬だけでは社会の破綻を招く。その間にあって、合理的な成果報酬システムの導入が必要なことを、「横並び」と「モラル・ハザード理論」という二つのキーワードを用いて理解してもらうことが第一の出題の意図であった。ここでは、文意をしっかりと読み取り、かつ的確にまとめることができるかという能力を問うことにした。

もうひとつの出題の意図は、こうした筆者の考えをしっかりと理解したうえで、それに対する自分の意見を、根拠をあげて議論してもらうことにあった。自分の考えをまとめ、筋道だてて説明する力を確認したかった。

【各問の解説】

<設問1>

ひとつめのキーワードは「横並び」である。この「横並び」という言葉には、近年になってどのような意味合いがこめられているのか、それはなぜなのかを理解してもらうことが、設問1のねらいであった。

200字という字数は少し多かったが、問いにあるように「横並び」という言葉が、なぜ好ましくない意味を含むようになったのかを聞いた。ポイントはいうまでもなく、「なぜ」というところにある。

要点としておさえておいてほしいのは、下記の3点である。

- ①言葉そのものではなく、その言葉が用いられる特定の文脈によって、悪い意味が生じる。
- ②この特定の文脈とは、「横並び」の積み重ねが経済停滞の原因であるという感覚が共有されるようになったことを指す。
- ③そこでは、仕事の量や巧拙にかかわらず一定の報酬が得られることが保障されると、頑張っただけの仕事をしなくなるのではないかとということが想定されるようになった。

表現の仕方としては、「なぜ」に対して、「——だからである」のような解答形式が望ましい。

<設問2>

もうひとつのキーワードは「モラル・ハザード理論」である。これについて、筆者は通常使われている世俗的な意味とは異なる、経済学で使う「モラル・ハザード理論」を解説している。この独自の理論をしっかりと理解しているかどうかを問うことが、設問2のねらいであった。「筆者の考え」がきちんと理解されているかが重要な評価のポイントとなっている。

要点は以下のとおりである。

- ①活動の内容や質によらずに結果の平等を保障するような仕組みをつくると、頑張っただけの仕事をしなくなる活力がなくなる。

- ②そこで、はっきりとわかる成果に応じて報酬が支払われるシステムを導入すれば、たくさん仕事をしようとする意欲が生じる。このように、望ましい活力を引き出すために、経済活動の成果に応じて報酬を支払うことでインセンティブを効果的に与えようとするのが、モラル・ハザードの理論と考えている。その意味で、この理論は、成果主義の立場を正当化する。
- ③この経済学的な考え方は、私利私欲に目がくらんで、社会のモラルに反した行動をとるという、一般に使われている「モラル・ハザード」の考え方とは異なる。

<設問3>

ここでは、上記2問の要約のあとで、自分の意見を展開してもらうことを意図していた。ただ、設問は「このような筆者の考え方に対するあなた自身の意見」を書くことを求めているので、「筆者の考え方」についての立場が表明されているかどうか、「自分の意見」が明確であるかどうかを評価の基準とした。

具体的に重視したのは、以下のような点である。

- ①主張が明確であるか。
- ②筆者の考え方に対するコメントがあるかどうか（立場の表明）。
- ③自分の意見に関する根拠がしっかりしているか。
- ④論理展開がしっかりしているか。

【解答の傾向】

設問1については、比較的よくできていた。

設問2については、やはり一般に使われている「モラル・ハザード」と、著者の用法の違いについて、正しく理解していない解答が目立った。

設問3については、自分の意見を、根拠を挙げてしっかり論ずる答案もみられたが、多くの答案は身近な事例を用いて自分の考えを展開していた。たとえば、勉強、バイト、フリーター、社会主義と資本主義、少子高齢化、ワークシェアリング、格差社会、セーフティネット、ワーキングプア、制服、年功序列制度、キャリア教育などの具体例を用いた答案が多かった。

問題点として、筆者の見解を要約したに過ぎないもの、高校の教室内での身近な体験を述べたに過ぎない答案が少なくなかったことがあげられる。しかし、最大の問題は、設問が求めるような、筆者の考えに対するコメントを書けていない答案が多かったことである。筆者との対話の中で自らの考えを深化させるような努力が求められる。

また、基本的なところでは、誤字が多かったのが気になった。たとえば、「競争心」が「競走心」に、「向上」が「高上」に、「正社員」が「正者員」に、「当時」が「当事」に、「派遣社員」が「派遣者員」に、「報酬」が「報州」に、「発揮」が「発揆」に、「創意工夫」が「総意工夫」に、といった間違いがあった。

問題 2

【出題の意図】

氾濫する情報の中で、示されたデータから必要な情報をとりだし、同時にそこに表される社会の実態を的確に読みとる力は、現代社会ではますます必要になっている。こうした力を問うために、この問題を設定した。中心的な題材は、温暖化と環境問題である。

これをより具体的に検討するために、問題 2 では、これらの問題の各側面を表す 4 つの図表を提示し、その解読を求めた。類似の内容のように見えて、それぞれのグラフが発信するメッセージは微妙に異なる。

設問 1 では、この微妙な差異を意識したうえで、各図表が示す内容を正確に読み取れたかどうか、またそれらを的確に表現できたかどうかを問うている。

設問 2 では、4 つの図を合わせるとどのようなことがいえるのかを問うている。したがって、グラフから合理的に言えることは書いてもかまわないが、そこから言えないことまで自由に論じてはいけない。つまり、グラフからどこまで言えて、どこは言えないのか、その判断ができているかどうか、その力を厳密に評価した。

【各問の解説】

<設問 1 >

(問 1)

近年問題となる温室効果ガスの温暖化効果についてであるが、それは害悪だけではなく、人間にとって必要な機能も果たしていることを読みとってほしかった。解答としては、このガスの存在によって、地表に 30 度もの温度差が生じることを明記してほしかった。

(問 2)

大気中の二酸化炭素濃度はハワイでも、日本でもほとんど変わらずに、一貫して上昇し続けていることを読みとってほしい。

(問 3)

世界の平均気温と海面水位がともに、この 100 年間並行して上昇していることを確認してほしかった。

(問 4)

地球史という超長期的なパースペクティブで現在を見ると、二酸化炭素の濃度の変化について、どのようなことがいえるのかを理解してほしかった。とくに、時間の目盛りが 1000 年単位であることを読みとる力があるかどうかを確認したかった。このような長期のスパンで見る場合、読み手はどのような社会を想定すればよいのか、この理解力を問いたかった。

<設問 2 >

ここでは、時間軸の違う、4 つの図を総合して、一つの主張にまとめあげる力を問うた。とくに、次の点に注意して採点している。

①あくまでも 4 つの図を合わせた時に言えることを、的確に書いているかどうかを厳格に見た。図から言えないことを勝手に書いた場合は、大きく減点している。

②問いには、「各図の説明の羅列にならないように」と書いてあるので、この点にも重点を置いて採点した。

③時間軸の違いに気付いているか。また時間軸の異なるグラフを総合することができるかどうか。

【解答の傾向】

設問1については、以下のような傾向が見られた。

1 設問1では、図表から言えることをどれだけ正確に読み取ることができたを問いたかったが、図表から読みとれないこと、あるいは読みとれる以上のことを勝手に書いている答案が多かった。資料から読み取れることと、自分の主張をしっかりと区別することが大事である。

また、「正確に読み取る」と言う場合に、小さな変化や差異ばかりに気を取られて、もっとも重要な情報を読み落としている答案があったことも、気になった点である。

2 どの図にも数値の目盛が付されているが、それがどのような意味をもっているのかについての的に読みとれていない答案が多かった。グラフに示されていることについては、定性的な傾向だけでなく、注目する具体的な数値を含めて記述することを望みたい。また、単位をつけずに数値のみで示す解答も多くみられた。単位が違えば同じ量でもまったく異なった数値で示される。単位の重要性についても注意してもらいたい。

3 図4については、危惧していたことではあるが、時間軸の幅を読み取れていない答案が多かった。設問には氷河期と間氷河期の表をつけていたが、それに対しても十分に配慮できていなかった。人間の時間を超える、自然の時間のスケールの大きさ、温暖化がどれくらいの時間のスパンで問題となっているか、その意味を正確に理解できている答案はほとんどなかった。

設問2については、やはり4つの図をあわせた時にどのようなことが言えるのかについて、明確な言葉で表現されていない答案が多かった。各図の関係を示さない単なる羅列に終わっている答案や、矛盾する内容を吟味せずに、そのまま書いている答案があった。

【文章作成の基本について】

1 文章を書く上での基本を踏まえていない答案も少なくなかった。誤字脱字も多かったし、文章の主語を欠いた答案、数値を示しつつもそれが縦軸の数値なのか、横軸の数値なのかを具体的に示す主語がない文章になっている答案、さらに一つの文として完結していない文章を書いた答案も目立った。あるいは、読み手に伝わるかどうかを考えない、自分勝手な文章も少なくなかった。

グラフを参照しなくても、文章だけで正確に内容が伝わるような文章を書くように心がけてもらいたい。そのためには、自分が書いた文章を推敲する習慣を日頃から身につけておくことが大事である。

2 しっかりと自分の考えをまとめる前に、今までに自分が知っている情報だけを用いて、安直に手軽く解答を書こうとする傾向がみられる点も気になった。答案を作成するうえでは、提示された資料に素直に向き合っ、読み取れる情報をまずは整理し、その情報の持つ意味をじっくりと考えながら、設問にどう答えるか熟考する態度を身につけてほしい。